

Contents

理事長ご挨拶	1
古森公浩	
第47回日本血管外科学会学術総会	
2次会告	2
特別寄稿—新名誉会員—	3
海外留学	
大北 裕	
特別寄稿—名誉会員—	4
血管外科入門の頃 忘れ得ぬ方々	
熊田 馨	
追 悼	5
星野俊一先生を偲んで	
加藤逸夫	
寄 稿—女性血管外科医—	6
女性血管外科医として思うこと	
林 祥子	
EVC 2018参加報告	7
高山利夫	
血成会について	8
尾原秀明・工藤敏文	
2017年優秀論文	9
お知らせ・関連学会学術総会情報	10
日本血管外科学会雑誌 オンライン版目次	
Vol. 27 No. 3~4	11

日本血管外科学会理事長挨拶



名古屋大学大学院 血管外科 古森公浩

この度2018年5月山形で行われました第46回日本血管外科学会総会において日本血管外科学会理事長を拝命致しました。伝統ある日本血管外科学会の理事長に就任し身の引き締まる思いです。私は2003年から日本血管外科学会の理事に就任し、これまでに日本血管外科学会誌編集委員長、血管内治療医制度委員長、将来構想委員会委員長、臨床研究推進委員会委員長などを務めさせて頂きました。この15年間の理事会活動の経験を生かし理事長の職責を果たしていきたいと思っております。

本学会の目的は、学会の理念にある通り医療プロフェッショナルの集団として、国際的視野に立ち、血管外科領域における良質な医療の提供を通じて人々の健康と福祉の増進を目指すことにあると思っております。現在、医療を取り巻く環境は、とりわけ外科医にとりましては厳しいものがありますが、学会の充実を図りつつ、学術団体として学会員のために活動を行うだけでなく、社会のニーズに答え、さらには社会への貢献を目指す学会運営を目指していきたいと思っております。

本学会の会員数は2018年5月23日現在、総数3647名（男性3429名、女性218名）です。徐々に会員数は増加していますが、さらなる学会発展のためには若手血管外科医の育成が大事であるのはいうまでもありません。そのためには若手血管外科医教育のための教育セミナー、distal bypass workshop、血管内治療ワークショップ、ステントグラフトワークショップなど、さらなる充実が必要と考えています。また、世界に向けて日本からの発信が必要と考えます。日本血管外科学会総会では、第43回の2015年横浜での総会よりアメリカ血管外科学会（SVS）の会長をお招きしSVS合同シンポジウムを企画するようになってきました。また日本血管外科学会にはSVS日本支部となっていますが、日本からのアメリカ血管外科学会参加者は少ないのが現状です。今後はアメリカ血管外科学会さらにはヨーロッパ血管外科学会（ESVS）と交流を深め、若手血管外科医がSVS、ESVS主催の学会で発表しやすい環境を整えていきたいと考えています。また韓国、中国などアジア諸国との交流も大事で日韓血管外科学会は2年に一度行われています。また、宮田哲郎 前理事長のご努力もあり、2021年には旭川医科大学血管外科教授 東信良会長のもとで、アジア血管外科学会が開催される事が、本年7月に広州で開催されたASVSで決定しました。日本血管外科学会、総力をあげてサポートしたいと思っています。また日独血管外科学会が2年に一度行われており、第10回が本年、8月にドイツ、フランクフルトで行われました。通常では2020年日本で行われる予定でしたが、東京オリンピックと重なるため第11回は大阪大学宮本伸二教授会長のもとで来年2019年9月に開催される事が決まっています。

これから2年間、全力を傾けて学会の発展のために努力する所存であります。会員の皆様におかれましては、温かい御指導、御支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

編集 日本血管外科学会 広報委員会

 発行 特定非営利活動法人 日本血管外科学会
 〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1
 小田急第一生命ビル4F
 公益財団法人 日本心臓財団内
 TEL : 03-5989-0991
 E-mail : jsvs@jhf.or.jp
<http://www.jsvs.org/ja/>

制作 株式会社国際文献社

第47回日本血管外科学会学術総会会告（第2次）

第47回日本血管外科学会学術総会を下記のとおり開催いたします。

会員の皆様には多数のご応募、ご参加をお願い申し上げます。

第47回日本血管外科学会学術総会 会長 古森公浩

記

会 期： 2019年5月22日（水）～24日（金）

会 場： ホテルナゴヤキャスル

〒451-8551 愛知県名古屋市西区樋の口町3番19号

TEL：052-521-2121

<https://www.castle.co.jp/hnc/>

会 長： 古森公浩（名古屋大学大学院医学系研究科血管外科学分野教授）

テーマ： 血管外科フロンティア～世界への発信～

プログラム内容（予定）：

理事長講演，会長講演，海外招請講演，日本血管外科学会教育セミナー

医療安全講習会，指導医講習会，国際シンポジウム（SVS Japan Chapter），CVIT 合同セッション，特別企画シンポジウム（一部指定，公募）

- 1：ビデオシンポジウム：TEVAR 後の再手術
- 2：TEVAR の長期予後と合併症について
- 3：弓部大動脈瘤治療の中長期成績
- 4：B 型大動脈解離治療の最前線（A 型術後・残存解離を含む）
- 5：胸腹部大動脈瘤治療の最前線
- 6：傍腎動脈腹部大動脈瘤に対する最善の治療
- 7：EVAR 長期予後改善のために
- 8：破裂性腹部大動脈瘤に対する最善の治療
- 9：大腿膝窩動脈病変をもつ跛行肢の長期治療成績
- 10：創傷・全身状態からみた重症虚血肢患者の治療戦略
- 11：静脈瘤に対する血管内治療の中長期成績
- 12：腸骨大腿静脈閉塞に対する最善の治療
- 13：女性医師の会シンポジウム

優秀演題，会長要望演題，ビデオセッション，一般演題（講演，ポスター）など

●**演題募集期間：2018年10月10日（水）～11月20日（火）**

※演題登録はすべてオンライン登録となります。

ホームページ URL：<http://www.congre.co.jp/jsvs 47/>

■事務局

第47回日本血管外科学会学術総会 事務局
名古屋大学大学院医学系研究科血管外科学分野
〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
TEL：052-744-2224 FAX：052-744-2226
E-mail：jsvs 47@med.nagoya-u.ac.jp

■運営事務局

株式会社コングレ 中部支社内
〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町2-13
栄第一生命ビルディング
TEL：052-950-3369 FAX：052-950-3370
E-mail：jsvs 47@congre.co.jp

海外留学

高槻病院心臓・大血管センター 神戸大学名誉教授 大北 裕

最近の若い外科医は海外留学をしたがらない、という話をよく耳にする。この情報化社会では web 閲覧することで、一瞬にして世界の動向を知ることができるようになった。また、日本の医学の進歩は世界レベルに達し、昔の森鷗外らのように先進技術を謹んで学ぶ必要はなくなった、など、海外留学を忌避する理由が多い。しかしながら、小生はそのような意見には全く賛成できず、彼ら若人の内向き思考を惜しむ。その理由はまず、第一に、手術数である。心臓外科に関しては欧米と本邦では手術の経験数が一桁以上違う。手術技量が急速に伸びる、言わば手術の臨界期に多くの症例に曝露されるという経験は貴重である。第二に全く日本語の通じない環境で、異邦人として生活し、英語でのコミュニケーション能力を獲得するのはコスモポリタンとして生きていくために必須である。小生は海外での討論で、自分の思っていること、考えていることをうまく表現できず、悔しい思いをしたことが多々ある。人の評価は口で表現できたものによりのみ、なされ、誰も忖度などしてくれない。また、海外留学を通じて、沢山の友人を得ることができ、世界における日本が置かれた位置も自分のなかで確立できる。第三に欧米には、超一流と言われる外科医が数多く存在する。日本とは次元の違う一騎当千、伝説の外科医が居る。彼らの警咳に接し、同じ空気を呼吸することで、自分の人生指針が大きく影響されよう。第四に、同じ手術成績でもそれに至るプロセスが彼我とでは随分違う。日本的集約作業、医師の過剰労働で同じような成績を出していても、太平洋戦争での零戦の栄光が長続きしなかったように、優れた包括医療システムのなかから生み出されるアウトカムにはそれなりの意義がある。第五に海外留学は、国内での仕事とは全く正反対に on-off が明確に決められ、職掌の区別も厳密で、徒に病院に留め置かれることはない。その結果、家族との濃密な時間が持てることは大きな利点である。



小生が神戸大学心臓血管外科に在籍した 18.5 年間に延べ 35 人の海外留学生を送りだした。その行く先は北米、欧州、東南アジアなどで、2018 年現在 10 人が海外在籍中である。基礎研究に従事している人間は少なく、これまで 10 人に満たない。当初研究室に入って実験に勤しんでも、その後、当地のライセンスを取得して臨床医学に従事している外科医が大部分である。なかには、留学中、無益に毎日を過ごす何の成果も上げられもせず帰国した輩も居るが、それ以外は概ねひとかどの優れた臨床医として現在も活躍中である。また、7 人は予定通り帰国せず、彼の地に長期滞在し外科医としての地盤を確立し第一線で勝負している猛者も居る。

留学生を送りだす大学医局としては、外科志望者の減少している昨今、残る医局構成員の、臨床、教育、研究面での負担が大きく増大し、正直しんどい。しかしながら、小生は 10 年、20 年後の発展する医局の将来を見据えて、少々の犠牲を払ってでも若い外科医が海外生活できるよう、懸命に努力してきた。今後も、先達に倣って野心溢れる若き学徒が参集することを願って止まない。

血管外科入門の頃 忘れ得ぬ方々

昭和大学名誉教授 熊田 馨

実は、寄稿依頼メールが何度も来ているのを迂闊にも見逃していた。周囲から注意されて慌てた。既に7月末でもあり辞退を申し出たが、それは遅すぎることなので、とも角机に向かった。「特別寄稿」などは「ためになる」談話と相場が決まっているが私には出来ない話。ひとより10年遅れて入門した血管外科だが、その初期に出会った先達の名前を幾つか挙げて責を果たしたい。

東京の石川浩一教授が「血管外科」という声が耳に届くと自分の事か！？と振り向いてしまう、と何処かに書いておられた。京都では若き日の日笠頼則教授、城谷均教授らが心臓外科で気を吐いておられたが、「血管外科」の畝はなかった。

木村忠司助教授の処に下肢鬱血、腹壁静脈怒張、腹水、食道静脈瘤、肝脾腫などを抱えた患者が入院し、CTも選択的腹腔動脈造影もなかった時代もあって診断前に死亡。剖検で下大静脈膜様閉鎖の病態が判明した。2例目は下大静脈への経腹アプローチが、発達した側副静脈叢に阻まれて不成功。日を置かず入院した3例目は経胸経心房的に閉鎖膜の用指裂開で救命した。剖検上の疾患であった Budd-Chiari 症候群がはじめて臨床疾患に参入したときの話であるが、当時の教室内で血管外科がはじまったとは誰も思わなかったし、TAO は交感神経節切除が対象でありむしろ疼痛機作に興味ももたれた位であった。

Leriche は血管外科の教科書に出て来る名前だが、血行の再建が出来る日に期待する！と語っただけで血管を直接扱った訳ではない。私事で恐縮だが、就任直後の木村教授に心臓外科のテーマを申し出たが自律神経、外科疼痛を与えられた。学位も疼痛関係であった。心臓外科を当てにして留学を申し出た時も、Leriche の弟子が Strasbourg に居るから自律神経を勉強に行けと紹介状を貰った。セコい話だが仏政府技術交換留学生の給費を受けて Fontaine 教授を訪ねた。自律神経はもうやっておらず、現在は血管外科だが好いか？と云われた。そこではじめて血管外科手術にお目にかかったが、来る日も来る日も Thromboendarterectomy である。皮肉にも TEA は、留学先の Leriche が残した示唆を胸に抱き Lisbon に帰った青年が創案した。Dos Santos 教授である。手術を見に来た客に外国語で説明していると、構文に気をとられるせいかへんな処を切ってしまうたりする。あの方はあちらこちらで TEA を供覧したとかで、私らにも英独仏を自在に操り手術ミスもなく進めておられた。今は日本の外科医も諸外国で言葉を旨く操りながら手術を見せて歩くときいている。まさに口八丁手八丁だと感心する。

当時私は手術は見るだけでは身につかないと信じていた。留学中、手に覚えさせることに拘って Marseille の昇進前の Mercier 教授にせがみ箸の上げ下げまで Marseille で教えてもらった。おかげで帰っても独りでやれるところまで覚え、1971年に帰国した。関西では、切断肢の再建で既に有名な上道哲先生や大城孟、岡田昌義教授らをはじめ同年代にも遣り手が揃っていた。脈管学会に入会したが前後もわからず三島好雄教授には、有難いことに、よく叱られた。田邊達三教授には折に触れ優しい言葉をかけて頂き随分救われた。阪口周吉教授の笑顔は忘れない。九州時代の草場昭教授、秀才ぶりには舌を捲いたな。私は昔から松本昭彦教授のファンで、今もお世話になっている。塩野谷恵彦教授はひとゝ少し離れて高く聳えておられた。畏友錦見尚道先生と一緒に叱言を頂いた日が思い出される。他領域だが、同門の菊池晴彦、伴敏彦、山岡義生教授らには今も兄事している。

日笠先生は、外科学会の課題のひとつに血管外科の他領域への応用を掲げられたが、いまや血管外科の関わらない領域はない。血管外科の道を様々に切り拓かれた先達の諸先生は以って瞑すべしである。

先達の名を、身勝手な想い出話に借用した失敬を深くお詫びする。



追 悼

星野俊一先生を偲んで

今治第一病院名誉院長 日本血管外科学会名誉会員 加藤逸夫

星野俊一先生は、昭和35年に福島県立医科大学を卒業し、母校の第一外科教室に入局、南カリフォルニア大学心臓血管外科（Jerome H. K教授）留学を経て、平成元年、母校に新設された心臓血管外科の初代教授に選任されました。平成12年の大学定年退職後は、御父上の創設された福島第一病院の理事長になりました。先生はライフワークの心臓血管外科領域で、多くの業績を挙げられ、静脈学に関しては、日本静脈学会の第2代理事長に就任されています。福島第一病院では、執刀はお弟子さんに任せ、その患者さんたちの「病気の予防」と「退院後の健康維持」を第二のライフワークとされ、クリニックの他スポーツジムまでも一体とした複合施設を作り、ご自身も日本抗加齢医学会の専門医になっています。

星野先生は、静脈学会副理事長の小川智弘先生をはじめ多くの優秀な血管外科医を育成されていますが、若いご次男の星野祐二君も静脈疾患の外科的治療で注目されています。

星野先生は大変なゴルフ愛好家でした。ゴルフを教室のスポーツとして、教室主催のコンペを開催され、新入局員には、ゴルフセットをプレゼントされていたそうです。ゴルフに対する真摯な姿勢、公平で温和なお人柄のせいもあって、名門パーシモンカントリークラブの理事長に三期にわたって選ばれています。素晴らしいゴルファーで、比較的小さいバックスイングから腰の回転で打ち出し、大きなフォローを取り、正確で、年をとっても飛距離はあまり落ちず、血管外科学会の東西対抗戦ではいつも東軍のエースの一人でした。昭和34年、35年の卒業で、教授になった日本外科学会会員の親睦会 [34/35の会] のメンバーである星野先生（福島）、藤原巍先生（岡山）、小生（愛媛）に、5歳年下の江里健輔先生（山口）を加えた名誉教授4人のKEFH会を作り、平成14年2月山口での第1回を皮切りに、年4回持ち回りで、2泊・2ラウンドのゴルフを楽しんできました。ゴルフだけではなく、近辺の名所旧跡、美術館を巡り、いろいろな宿に泊まり、前夜祭、反省会では、趣味も性格も異なった4人の話題はあらゆることに及びましたが、星野先生はいつも悠揚迫らず、口論になったことは一度もありませんでした。しっかりしたご家族を持たれ、病院にも良き後継者を得られた先生は「今、自分の最大の案件はゴルフです」と言われて、楽しんでおられました。そのKEFH会も平成29年10月、星野先生のお世話で、福島で開催されたものが最後となってしまいました。

何事も先を読んで、目標を立て、常に前向きに努力し、実現されていく先生は、小生のお手本でしたが、平成30年3月11日に間質性肺炎の急性増悪により85歳で亡くなりました。最高の友人の一人を失って悲しみに耐えません。謹んでご冥福をお祈りいたします。



女性血管外科医として思うこと

済生会横浜市東部病院心臓血管外科 林 祥子

私が心臓血管外科に興味を持ったのは実に遅く、臨床研修2年目のことであった。もともと循環器内科を専攻しようと考え研修をしていたのだが、2年目の選択科目で腹部外科を選択し、そこで外科学の面白さに魅了されてしまった。専攻を選ぶ時に、循環器に携わりたい、しかし、外科学を追求したいという気持ちから、心臓血管外科を選ぶ事になった。心臓血管外科という厳しい道程を進むには甘えは許されないだろうという気持ちで、家族・友人と離れ、生まれ育った群馬から遠い倉敷の地で後期研修を始める事となった。今思い返してみても、当時の私を指導し続けて下さった恩師には感謝と尊敬の気持ちしか湧かないが、何とか3年の後期研修を終え、続けて東京でのハイボリュームセンターでの3年のレジデント生活を終えた。現在は、横浜市にある地域医療の拠点でもある560床の中規模病院に勤務している。当院は心臓血管外科と血管外科で科が分かれているため、血管外科医としては、大血管手術、TEVAR、および、TAVI時のアクセス管理が主な仕事である。



女性医師にとってキャリアパスを予想するのが非常に難しい。なぜなら、結婚・出産をどうするかで全く異なってしまうからだ。また、メンターといえる人物を見つけることが非常に難しいことも指摘したい。もちろん私にも、困った時、迷った時にあの先生ならどうするだろうかと自分の中での行動指針となるべく尊敬する恩師はいる。しかし、いずれも男性であり、女性ではない。同性のメンター、もしくはロールモデルを見つけれない女性医師は孤独の中で働いていることを男性医師には理解いただきたいと思う。

そのため、私自身、女性医師としてどのように働いていいのかわからないまま、男性医師と同様に研鑽をつみ、心臓血管外科専門医を取得し、今回、おこがましくも、血管外科学会評議委員にも選出していただいた。周囲の環境に非常に感謝しているのは間違いないが、これは果たして血管外科の未来に、特に未来の女性血管外科医師にとって喜ばしい事だろうかと疑問を抱き続けている。

それは、私自身のキャリアパスを振り返った時に、女性としての部分をおざなりにし、医療に携わってきたと思うからである。それゆえ、無意識にせよ意識的にせよ、プライベートを犠牲にして仕事に打ち込む事をよしとし、それ以外の生き方を否定してきてしまった。それは自分だけではなく、同僚にも及び、何とも余計なお世話な厳しい意見をしてきてしまった。これは私特有の事ではなく、女性外科医は周りに厳しい方が多いように思える。この様な事をしていては、新人の女性血管外科医師のロールモデルにはなり得ないだけで無く、彼女らの参入を阻害してしまうのではないだろうか。

外科医の労働環境は決して恵まれていると言えない現状の中、女性医師を優遇するマンパワーを備えた施設はどれだけあるだろうか。だからこそ、女性医師の参入をスムーズにし、彼女らが働けるように、本当の意味での多様性を模索していくことが、全体としての労働力不足を補う事になると考えている。特に血管外科は手術時間が比較的短い事や、フットケアなど女性に向いている分野である事、またチーム医療を構成していくに当たり、女性医師のコミュニケーション能力の高さを発揮していく場面は多々あると考えられる。

最後に、私自身まだ何かを成し遂げていない若輩者だが、血管外科医になろうかと考えている研修医の先生、修練最中の若い女性医師たちに伝えたいことがある。やりたいことを我慢せず、遠慮せずにどんどんやっていって欲しいということだ。臨床を突き進み、留学などして、偉大な術者になるのも、アカデミックに進むのも、教育に進むのも、家庭を持つのも、それらを同時に行うのも、未来の誰かにとっては将来を指し示す灯火になるからだ。胸を張って、キャリアを積み上げていってください。応援しています。

European Vascular Course 2018 参加報告

東京大学血管外科 高山利夫

東京大学血管外科の高山利夫と申します。2018年3月にオランダマーストリヒトにて開催されました European Vascular Course 2018に参加して来ましたので体験記をご報告いたします。これから参加を考えていらっしゃる先生方のご参考となりましたら幸いです。

European Vascular Course は、「バスキュラーコース」という名称からもお分かりいただけるように、血管外科全般について幅広く網羅されています。欧米の血管外科権威たちによるレクチャーが受講できることに加え、リアルな血管モデルを用いた吻合トレーニングやコンピューターシミュレーションによる血管内治療トレーニングなどのハンズオンセミナーも多数受講できることが特色です。2018年の参加費用は通常795ユーロのところを、日本血管外科学会会員は特別割引価格で150ユーロになりました。なお有料のハンズオントレーニングなどに参加する際には別途料金が発生します。

動脈疾患コース・静脈疾患コース・透析アクセスコースを3本柱に座学と実習を3日間に凝縮した、血管外科専門医速成ブートキャンプといった内容なので、血管外科の専門トレーニングを始めて10年目くらいまでの方が参加されると最も役立つのではないのでしょうか。特に、血管吻合や血管内治療を始めて間もない若手の先生方には手技系のハンズオントレーニングが有用だと思います。多彩なセミナーとハンズオントレーニングが多数の会場で同時に進行していきますので、スケジュール管理やトレーニング予約のために今年からリリースされた専用アプリが便利でした。なお、昨年まで配布されていたという紙媒体のテキストブックは今年は配布されませんでした。私自身は静脈疾患や透析アクセスのセッションを中心に出席し、最新の知見やテクニックについて興味深く学ぶことができました。少し残念だったこととしては、ヨーロッパの学会ということで最新の血管内治療デバイスが色々見られるかと期待していたのですが、教育的集会という性格上からかあまりデバイスの展示は豊富ではありませんでした。

会場内で多くの血管外科医たちと交流できることも魅力で、ポーランドから来たという若手との会話から、彼の国では6年間の血管外科専門医コースが新設されたということや中国製のステントグラフトが認可されていることなどを知りとても興味深かったです。日本からの参加者も数多く、北海道から九州まで幅広い地域から参加されており、特に女性外科医が数多く来られていたことに我が国の血管外科の明るい将来性を感じました。

最後になりますが、日本血管外科学会に感謝申し上げますと共に、3月という血管外科医にとって多忙な時期にもかかわらず快く1週間もの不在を許して下さい下さった東大血管外科の諸先生方に心より感謝の気持ちを含めて本稿を終えさせていただきます。



マーストリヒト市庁舎をバックに

血成会について

慶應義塾大学外科 尾原秀明

東京医科歯科大学血管外科 工藤敏文

およそ5年前我々（尾原・工藤）二人で呑んでいるときに「血管外科医はそれほど多くないし、学会場以外で交流を持てる場があるといいよね」という話題から、知己の血管外科医に話が広がりほとんどん拍子に「血管外科平成の会（仮称）」が立ち上がることとなりました。血管外科の先輩方が「中二階の会」を和気藹々と開催されているのをモデルケースとして「若手版」（当時）としての立ち位置でございました。基本的には「同世代の血管外科医の横のつながりを深めるための親睦会（呑み会）」が活動の中心であり、会員の要件として、1）血管外科医である、2）卒業年次が基本的には平成元年以降であるとし、会の名称も「血成会（けっせいかい）」としました。

2013年4月11日に博多で、九州大学第二外科 松本拓也先生（現国際医療福祉大学血管外科教授）幹事により、Wisconsin 大学血管外科山之内大先生にもご講演もいただき、プレミーティングを行った後、同年5月29日大阪で、第1回血成会（幹事：尾原秀明）を開催いたしました。以降毎年2回、日本血管外科学会と日本脈管学会の会期中に会合の機会を持ち、今回は今年5月10日山形において第11回血成会（幹事：山形大学第二外科山下淳先生）を行いました。参加人数は40名を越え、地元の美味しいお酒と食事とともに貴重な交流の機会を持つことができました。次回は、今年10月日本脈管学会会期中に広島で第12回血成会（幹事：広島赤十字・原爆病院血管外科 大峰高広先生）を予定しております。

現在、会員は北海道から九州まで、平成元年卒業から平成24年卒業の若手まで、160名を数えるに至っております。また血成会のつながりから、東京都済生会中央病院血管外科 藤村直樹先生と久留米大学心臓血管外科 鬼塚誠二先生主導による多施設共同研究（Spiral Z 研究）も進行中であり、今後、学術的にも活動の幅が広がっていくことが期待されます。

とはいうものの、基本である「呑み会」の本分を忘れることなく濃厚に継続を続けていく所存でございますし、学年や学閥？にとらわれない気楽な立ち飲み屋のような雰囲気を持っていければと思っております。

残念ながら平成の元号は来年までであり、「血成会」の名称自体は本来の由来を失ってしまいますが、5年間で築き上げられた全国の血管外科を志す同士のつながりは確固たるものとなっております。この絆を大切に、これからもゆるくかつ粘り強く活動を続けていきたいと考えております。本会が血管外科と次世代の先生方のご発展に少しでも貢献できれば幸いです。



第11回血成会 平成30年5月10日 於：山形

血成会開催一覧

血成会	年月日	学会	幹事施設	幹事	開催地
プレミーティング	平成25年 4月11日	九州大学	第二外科	松本拓也	博多
第1回	平成25年 5月29日	血管外科学会	慶應義塾大学 外科	尾原秀明	大阪
第2回	平成25年 10月10日	脈管学会	日本大学	梅澤久輝	東京 八重洲
第3回	平成26年 5月22日	血管外科学会	弘前大学	谷口 哲	青森
第4回	平成26年 10月30日	脈管学会	川崎医科大学	心臓血管外科 柚木靖弘	倉敷
第5回	平成27年 6月 3日	血管外科学会	済生会横浜市東部病院 血管外科	渋谷慎太郎	横浜
			湘南鎌倉総合病院 大動脈センター	荻野秀光	
第6回	平成27年 10月30日	脈管学会	東京医科歯科大学	血管外科 工藤敏文	東京 虎ノ門
第7回	平成28年 5月26日	血管外科学会	東京大学	血管外科 保科克行	東京 新橋
第8回	平成28年 10月13日	脈管学会	赤穂中央病院	心臓血管外科 北川敦士	奈良
第9回	平成29年 4月20日	血管外科学会	東広島医療センター	心臓血管外科 佐藤克敏	広島
第10回	平成29年 10月19日	脈管学会	名古屋大学	血管外科 坂野比呂志	名古屋
第11回	平成30年 5月10日	血管外科学会	山形大学	心臓血管外科 山下 淳	山形
第12回	平成30年 10月	脈管学会	広島赤十字・原爆病院	血管外科 大峰高広	広島

2017年優秀論文

日本血管外科学会編集委員会
委員長 駒井 宏好

『日本血管外科学会雑誌』2017年の掲載原著論文のなかから下記の論文が2017年優秀論文に選出、認定されました。

記

1) 腹部大動脈瘤に対する治療戦略—ステントグラフトは何をもたらしたか?—

緑川博文 (財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院心臓血管外科) ほか

27巻1号 pp. 27 - 32

選出理由: 2007年の保険償還開始後, 腹部大動脈瘤 (AAA) に対するステントグラフト内挿術 (EVAR) の比率は年ごとに高まり, 現在 AAA 治療の半数以上が EVAR により行われるようになった。それに伴い, 開腹手術に回る AAA 症例の難度の上昇, EVAR 症例の高齢化・高リスク化, AAA 破裂症例の減少などの変化が語られることが多くなった。本論文は, 単独施設統計という弱点を持ちながらも, 上に述べた疾患構造の変化を統計学的に証明したものである。

2) 慢性 B 型解離における大動脈血管径増大に関わる因子

中村 健 (山形大学医学部外科学第二講座) ほか

27巻1号 pp. 55 - 60

選出理由: 急性 B 型大動脈解離は, 合併症がない限りは保存的治療が第一選択となる。この論文では, 心臓血管外科医が, 救急初診時から一貫して管理した急性 B 型大動脈解離症例 104 例における, 慢性期の大動脈血管径増大因子を分析している点が特徴であり, 臨床現場での治療戦略を検討するに際して, 大変有用な情報を提供している。大動脈拡大を示した症例の約半数は手術を必要とする結果であったことも示しており, この研究を基盤として, 慢性期に手術対象となる症例の更なる選別に向けた発展研究が期待される。

3) バスキュラーアクセス手術における腋窩ブロック麻酔の表在静脈拡張効果

江口大彦 (福岡市民病院血管外科) ほか

26巻5号 pp. 235 - 239

選出理由: 超音波ガイド下腋窩神経ブロック法による尺側皮静脈径の拡張を, 研究プロトコールに従い, 薬量, 浸潤時間, 計測部位などの条件が揃ったデータを収集した上で, 定量的に証明した点が優れる。加えて, 特に術前の径が細い静脈に有効性だったことも, 適切な解析を用いて示した。本麻酔法の有用性を客観的データに基づき提示した, バスキュラーアクセス作成の成績向上に貢献できる研究である。

お知らせ

●2018年心臓血管外科専門医認定試験のご案内

日時：2018年11月9日（金曜日）
集合時間12:30、試験時間13:00～16:00（3時間）
会場：JPタワーホール
東京都千代田区丸の内二丁目7番2号 JPタワー・KITTE 4階
<http://www.jptower-hall.jp/access/index.html>
アクセス：JR 東京駅 徒歩約1分 丸の内線東京駅 地下道より直結
千代田線二重橋前駅 徒歩約2分 三田線大手町駅 徒歩約4分
JR 京葉線東京駅 徒歩約3分 有楽町線有楽町駅 徒歩約6分
JR 有楽町駅 徒歩約6分

試験形式：筆記試験 Multiple choice

持参物：受験票、HB 黒鉛筆、プラスチック製消しゴム、下敷き（A4）、時計（携帯電話不可）をご持参下さい。

●第4回日本血管外科学会血管内治療ワークショップのお知らせ

第4回血管内治療ワークショップを下記のとおり開催いたします。

日時：2018年11月17日（土）18日（日）（1泊2日）
場所：東京サイエンスセンター
〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25番19号
Tel: 044-288-7050

募集人数：20名

参加費：50,000円（テキスト代込み、宿泊費別）

申込受付：受付は終了いたしました。来年も開催予定ですので是非ご検討ください。

対象：下肢末梢血管に対するアドバンスレベルの血管内治療を学ぼうとする血管外科医で、腸骨動脈病変に対する血管内治療の経験を有することが望ましい

プログラム：座学ならびに動物（ブタ）を用いた血管造影を伴う wet labo をプログラムに盛り込んでおり、より実践的なプログラムを予定しております。
詳細は日本血管外科学会ホームページ（<http://www.jsvs.org/ja/>）をご覧ください。

《到達目標》

- ・下肢末梢動脈疾患の血管内治療の適応と禁忌を理解する
- ・下肢末梢動脈の穿刺・アプローチ法を理解する
- ・血管内治療に必要なガイドワイヤーとデバイスの選択について理解する
- ・下肢末梢動脈閉塞病変に対する血管内治療の技術を理解する
- ・合併症発生時の対応を習得する

【問い合わせ先】

血管内治療ワークショップ運営事務局

E-mail: evt@us-lead.com

●サイトビジット（NCD データベースと原資料のデータ照合）へのご協力のお願い

この度、日本血管外科学会では、データベースをより信頼性の高いものにすべく、サイトビジット（施設訪問によるデータ照合）を実施することと致しました。平成23年より全ての手術情報をNCDへ登録し、データベースとして運用を進めて参りましたが、医療の質向上のためには、治療成績も含めた疾病統計データが不可欠であり、日本の血管外科の現状を統計的に示す唯一の貴重なデータとなります。

臨床研究を取り囲む社会の目が厳しくなった昨今、第三者による原資料確認を伴うデータ照合、監査を実施し、データの信頼性、客観性を示す必要があると考えております。

対象の施設には、別途ご依頼させていただきますが、趣旨をご理解頂き、何卒ご協力賜れますよう、宜しく申し上げます。

詳細は、日本血管外科学会ホームページにてご確認ください。

サイトビジットについて：<http://www.jsvs.org/ja/enquete/sitevisit/>

●血管内治療認定医審査受験料減額のお知らせ

この度、血管内治療認定医申請に伴う審査受験料を、下記の通り減額いたしましたので、ご案内申し上げます。詳細は、日本血管外科学会ホームページにてご確認ください。

旧審査受験料) 20,000円 → 新審査受験料) 10,000円

血管内治療認定医制度申請要項：http://www.jsvs.org/ja/certified_physician/requirements/

関連学会学術総会情報

※詳細については各学会にご確認ください。

■第59回日本脈管学会総会

会期：2018年10月25日（木）～27日（土）

会場：ホテルグランヴィア広島

〒732-0822 広島県広島市南区松原町1-5

会長：吉栖正生（広島大学大学院医歯薬保健学研究所心臓血管生理医学）

URL：<http://www.med-gakkai.org/jca2018/>

■第39回日本静脈学会総会

会期：2019年7月4日（木）～5日（金）

会場：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

会長：石橋宏之（愛知医科大学 血管外科）

■第49回日本心臓血管外科学会学術総会

会期：2019年2月11日（月）～13日（水）

会場：岡山コンベンションセンター他

〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町14番1号

会長：種本和雄（川崎医科大学 心臓血管外科学講座）

URL：<http://www.med-gakkai.org/jscvs2019/>

■第71回日本胸部外科学会定期学術集会

会期：2018年10月3日（水）～6日（土）

会場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

〒108-0074 東京都港区高輪3-13-1

会長：荒井裕国（東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科 心臓血管外科）

URL：<http://www.congre.co.jp/jats/71/>

■第119回日本外科学会定期学術集会

会期：2019年4月18日（木）～20日（土）

会場：大阪国際会議場他

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

会長：土岐祐一郎（大阪大学大学院 消化器外科）

■2019年 ASVS (Asian Society for Vascular Surgery)

会期：Oct 22 -Oct 26, 2019

会場：Bali Nusa Dua Convention Center

会長：Patrianef Darwis

URL：<https://www.asvs2019.com/>

■2019年 VAM, Vascular Annual Meeting (Society for Vascular Surgery)

会期：June 12 -June15, 2019

会場：Gaylord National Resort & Convention Center, National Harbor, MD (outside Washington, DC)

日本血管外科学会雑誌 Vol. 27 (2018) Contents

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsvs/-char/ja>

No. 3

症 例

- 凝固第 XIII 因子製剤が止血に有効であった解離性大動脈瘤が原因の播種性血管内凝固症候群の一例
伊藤寿朗ほか（札幌医科大学心臓血管外科） pp. 247-250
- 下肢に側副血行路を分岐する孤立性内腸骨動脈瘤に対しステントグラフト内挿術を施行した一例
西本隆亨ほか（横浜医療センター心臓血管外科） pp. 251-254
- 腸間膜損傷と大腿骨頭骨折を合併した外傷性弓部大動脈損傷の1例
増田暁夫ほか（松波総合病院心臓血管外科） pp. 255-258

No. 4

総 説

- 傍腎動脈腹部大動脈瘤に対する Open vs EVAR の最近の進歩と長期成績
朝倉利久（埼玉医科大学国際医療センター心臓血管外科） pp. 303-308
- 急性大動脈解離に対するステントグラフト内挿術
内田徹郎ほか（山形大学医学部第二外科） pp. 337-345

原 著

- 遠位バイパス後の Failing Graft に対する EVT の治療成績
小林 平ほか（JA 広島総合病院心臓血管外科） pp. 267-272
- 広範偽腔開存型慢性 B 型大動脈解離に対する胸部ステントグラフト内挿術の治療成績
藤岡俊一郎ほか（国立国際医療研究センター心臓血管外科） pp. 281-287
- ポリウレタングラフト（Thoratec）を使用した腋窩動脈人工血管バスキュラーアクセス作成術の成績
松下 恭ほか（獨協医科大学日光医療センター心臓・血管外科） pp. 313-317

症 例

- 太い異所性腎動脈を有した馬蹄腎合併の腹部大動脈瘤に対する EVAR の1例
加藤一平ほか（医療法人財団明理会明理会中央総合病院心臓血管外科） pp. 259-262

- 救命しえた鈍的外傷による総腸骨動脈断裂
田畑光紀ほか（安城更生病院外科） pp. 263-266
- Helicobacter cinaedi による感染性大動脈瘤の2治療例
菅野靖幸ほか（獨協医科大学病院ハートセンター心臓・血管外科） pp. 273-276
- 高齢者破裂性感染性腹部大動脈瘤に対するウシ心膜によるパッチ形成術の1例
原田英之ほか（社会医療法人孝仁会鉏路孝仁会記念病院心臓血管外科） pp. 277-280
- 心タンポナーデを伴う偽腔閉塞型大動脈解離を疑い緊急手術となった IgG 4 関連炎症性胸部大動脈瘤の1例
中村康人ほか（松波総合病院心臓血管外科） pp. 289-292
- 多臓器への重篤な血栓塞栓症を引き起こした膝窩静脈性血管瘤の1例
桑野彰人ほか（佐賀大学医学部附属病院胸部・心臓血管外科） pp. 293-296
- 下行大動脈瘤破裂による大動脈気管支瘻に対して胸部ステントグラフト内挿術を施行した2例
小林龍宏ほか（地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構日本海総合病院心臓血管外科） pp. 297-301
- EVAR 後の Type 1 a エンドリークに対して、開窓したアオルタ・エクステンションを用いた追加 EVAR で治療した1例
前田和樹ほか（広島大学病院心臓血管外科） pp. 309-312
- 感染性心内膜炎治療1年後に発症した感染性仮性上腕動脈瘤の1例
大城規和ほか（湘南鎌倉総合病院心臓血管外科） pp. 319-322
- 腹部鈍的外傷による腸管損傷に合併した腹部大動脈損傷に対する1手術例
関 功二ほか（富山市立富山市民病院呼吸器血管外科） pp. 323-326
- 大腿膝窩動脈領域完全閉塞に対して Ring-stripper を用いた浅大腿動脈血栓内膜摘除術と自家静脈バイパス術を併用した1症例
長崎和仁ほか（下北沢病院血管外科） pp. 327-331
- 鈍的外傷による骨傷、脱臼を伴わない膝窩動脈損傷の1例
福廣吉晃ほか（生長会府中病院急病救急部） pp. 333-336

■学会からのご案内

会員登録内容に変更があった場合は、下記 URL より速やかに変更手続きをしてください。原則としてご自身で変更修正等を行っていただいておりますが、不都合がございましたら事務局宛にメールか FAX にて変更内容をご連絡ください。事務局にて変更を行う場合は文書での記録が必要となりますので、お電話でのご連絡はお控えいただけますようお願い申し上げます。

会員登録情報変更：http://www.jsvs.org/ja/application/guidance_change/

LeMaitre® 血栓除去カテーテル

レメイト・バスキュラー社は以下の特徴的な3種類の高品質な血栓除去カテーテルを提供しています。

オーバーザワイヤー

標準的なガイドワイヤーとの互換性
造影剤注入機能
灌流機能

シングル・ルーメン

耐破裂性、同心性に優れています。

ノバジル・ラテックス・フリー

ラテックスに敏感な患者さまに対応可能な
高品質なシリコン製バルーン

オーバーザワイヤー
シングル・ルーメン
ノバジル・ラテックス・フリー

医療機器承認番号：21900BZY00046000
医療機器承認番号：16000BZY00913000
医療機器承認番号：21600BZY00302000

プルット オクルージョン& パフュージョン カテーテル

レメイト・バスキュラー社では、安全かつ
速やかな血流の遮断を実現させる、
オクルージョン・カテーテル
製品群を提供しています。



プルット 腹部大動脈 オクルージョン・カテーテル
プルット イリゲーション オクルージョン・カテーテル
プルット スモール オクルージョン・カテーテル
ディスタル パフュージョン・カテーテル

販売名：血管閉塞用カテーテル
医療機器承認番号：20800BZY00236000

製造販売元

レメイト・バスキュラー合同会社
〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-9-4
TEL. 03-5215-5681 FAX.03-5215-5682
www.lemaitre.com

LeMaitre®
VASCULAR

Your Peripheral Vision™